



夏祭浪花鑑

一



4341
1



8
4541
1-5

村

戸神
丁
清



志七九段人

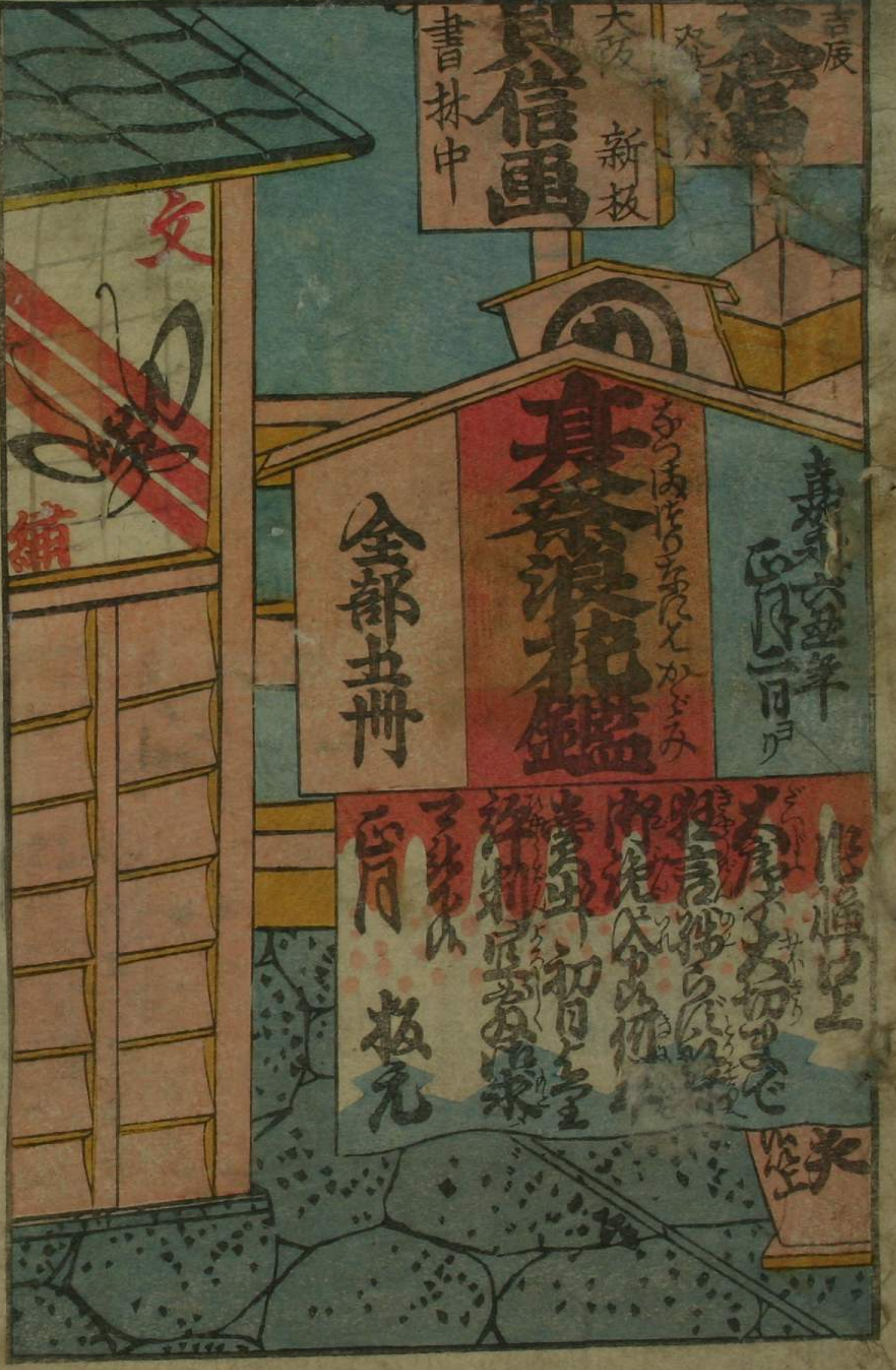
昇承の舎

吉

昭和九年
九月十四日

吉辰
大坂
新板

書林中
信画



真奈波花鑑

全部土冊

喜劇の宝庫

此種は
骨 枕

天

松林



娘
あまう

玉子
あまう

へ8
4341

特



約
毎
二
娘

子
代
清
七

松

御松之針

傾珠之浦



女肩おはせ

三河屋義虎



ともありし素がぞんぞんふ人のゆとけらる酒高礼舞ふはしる
 りはし唐去の乐天が酒功徳とまらまびは意あふ酒のいばを
 清くあまこのあ女とそらく今如御縁さまくの考あ女の微
 妙とほくさんゆいふらうあま 作あゆあつらまともそわ
 吳玉のころごをさささるの風多とやさく縁縁の天王の御宇
 融の大臣といふ人彦美のちろの塩竈と塩島ひと案河東院
 一塩がまとうりし難波のうらうら波とくませは奥ありし
 何とゆらんたろるようあなまともははは意あふ女と集あたま
 し女とほくら波波体のた奥いふあらん 八百や 一やうら
 何を君ふはねあつてそのうでのにた奥縁とるあ糸 久三
 女をたひくさふ言とよらしはあなねるややく維くまけらる

君よ言とあまことゆりく 上 河よあまのゆとけらる酒高礼舞ふはしる
 源の流をまはすてまじめ 上 河よあまのゆとけらる酒高礼舞ふはしる
 そくよ 破 素が 唐去の乐天が酒功徳とまらまびは意あふ酒のいばを
 清くあまこのあ女とそらく今如御縁さまくの考あ女の微
 妙とほくさんゆいふらうあま 作あゆあつらまともそわ
 吳玉のころごをさささるの風多とやさく縁縁の天王の御宇
 融の大臣といふ人彦美のちろの塩竈と塩島ひと案河東院
 一塩がまとうりし難波のうらうら波とくませは奥ありし
 何とゆらんたろるようあなまともははは意あふ女と集あたま
 し女とほくら波波体のた奥いふあらん 八百や 一やうら
 何を君ふはねあつてそのうでのにた奥縁とるあ糸 久三
 女をたひくさふ言とよらしはあなねるややく維くまけらる

松



大名の仇如吉門



玉子殿

けいせき張浦

松林



一寸徳言

八



八まの八

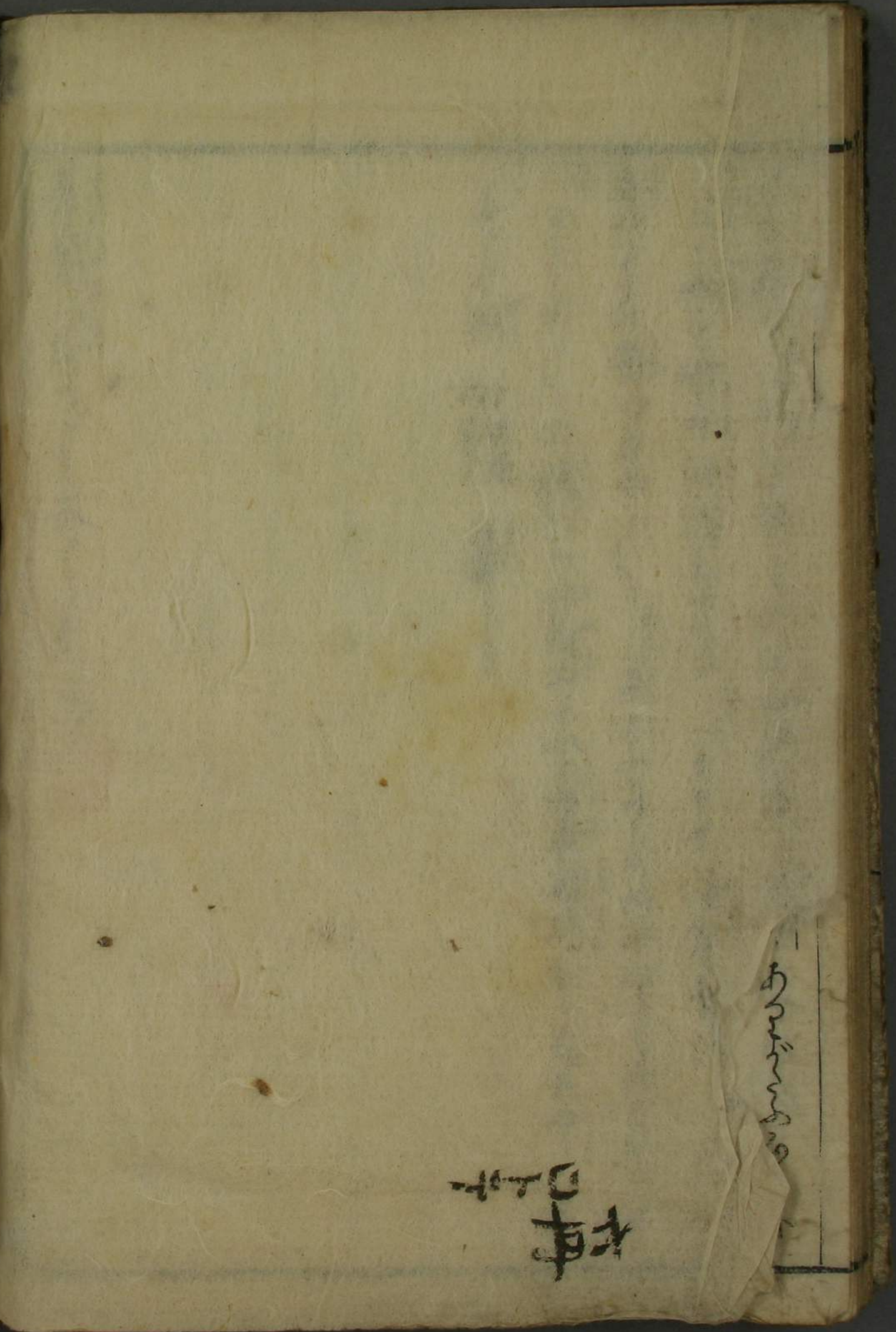
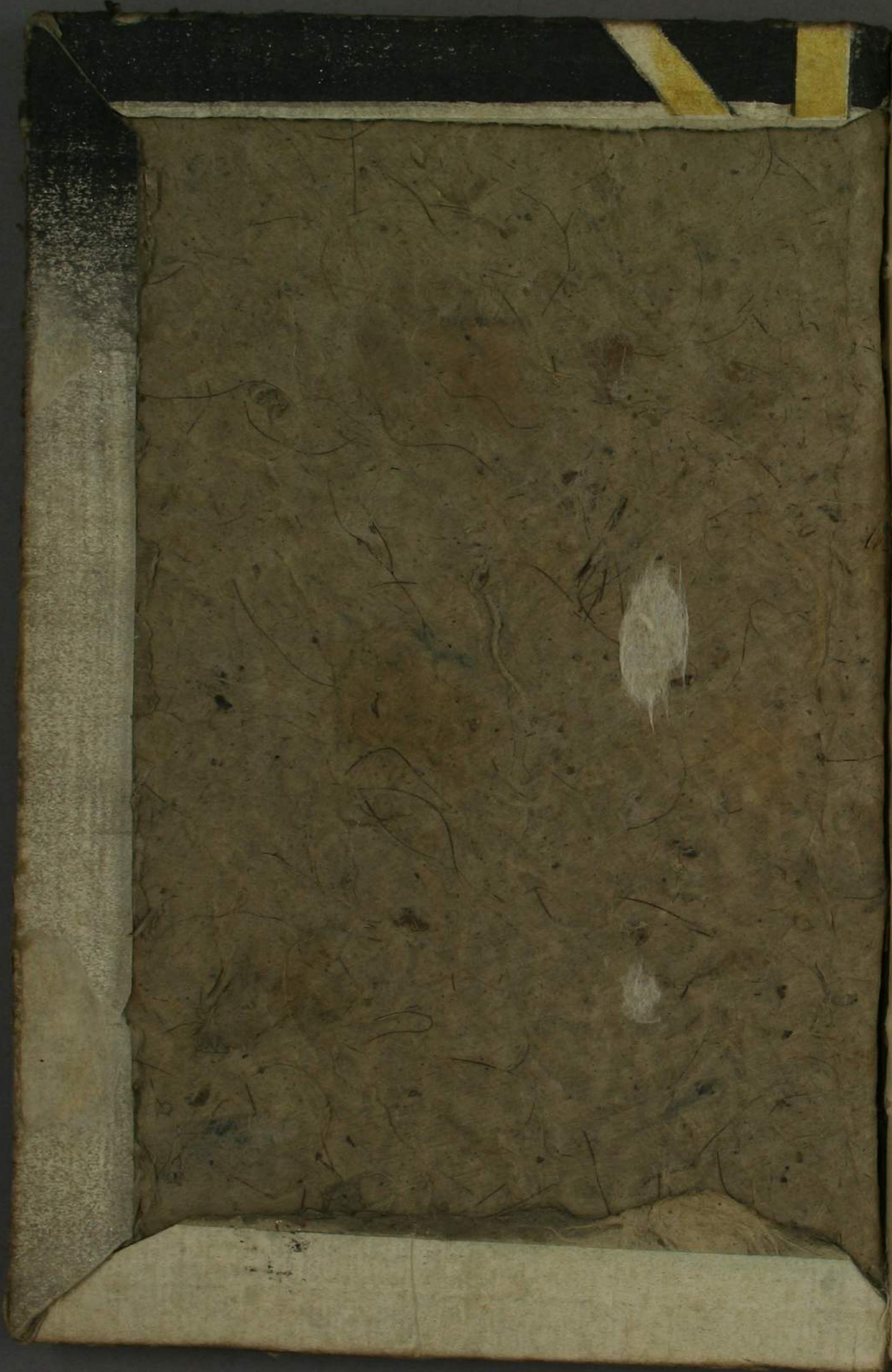
ろをの抱

ようよ来たくくると始末のあざりたりおやめししくと秋仁乃
 吳尼をらまの皮とも思ひごとく親をわやたせぬおまごが母
 老人の又抱へくけよらり日向ふらり煮度り夫婦がらんら
 その母老人の義理のまじりては子孫のあはれどやの心懸りあ
 変りし身交せんく秋方うらうらとていざりあつらひあ
 秋仁のあうり引はうまへく二月やど度後穿同前一寸も
 うごうさびおあひの母をよびりよ嫁ひでめてごうら何り秋仁
 が孔明とやられてもは釋信まへくはた遊遊して並ゆへり
 お日ゆりにあよまはしき用は孔明う死のお身三國志の礼まふ
 一七のまゆらり破産と文出て女房お抱と家の番頭は刃取て
 いかよあよあまくくるとうらうらとあまくくもけいし秋仁のよ代り引

奥より田舎の客も余何人移りせうのほしよあまききてマア
 清酒をくせく刃まぶようその春人をひとりもうく家内して
 のとよる南かいしぬ衣おたを禦衣飛して月の切もだの
 南の流まのあど女房お抱と因果を問は盗人はあの大うよ
 あひがんやあてもちよとてうらうの残まよくも散
 さの目ぐ死に秋仁が孝養のうげうらあうままま親の罰
 今のがらり身の親あしぬがらりてつごうらうよあおさの今
 での合点うらてむだのうら人のあまうらうあよあよ来てらぬぬ
 ののついであまよあうらこのの業障業障よをくはさごごらあ
 ありし親あうらと頼たごうらと教しありとなあありて
 くらまらト後取人あひあまき津 今おまぬ悔らうと涙よごうら身の

うへに武人なり候もあつらふどめんはよあまるのしほは実ま
を食のあまごころハ「エ」の言や素性もよふものモウ様思て
やうてらまひ「まが様思せうやうをうんあんまのりのでやん位
コリヤ新米よそよひく盗人殺さまを因のうんぞと夜に殺さ
やうハア々の人の身のうあまのうが身の上をナアまは
お山を交出して業障を業むよまご人でも令の言がで後やその
ぶぬどやハよモウ合点せの言もあんまり令をまをせは
ごころぞ合点ごころとト三讀ハ「何とぬうまをうかりや
候うのを食ぶやうの新米よまの素性もよふものど
どあてして元の身よまの形はゆふまを殺さけい「そんなモウ
りうしてむらうエく「あまの申ありお候又がお遠海でもあ

まうまうい「ハテさてやうぞりおどりの言が止め「イヤくを
食も食後ひとつありあるアノ言が来てんせ「イヤ
今の言「でんごころひまつがうあまの中ありおま
「あまごころとやうサア武人まうごころ「サアいんせ
「後のほ橋浩うける伊丹ふあぬこりごうお連てを
まゆく始末をまゆく「悪あともいふは片隅のうま
まうまう「中あまの言もあまごころとくごころい「あま
「イヤごころの言もあまごころ「いぬの思候ごころ
今の外「どあまをまうぬがかりわいぬ「イヤヤく
今のお候り候ごころの私の使の言はお家言の言を
今もまうまう「あまごころの言もあまごころ「今の新米を食



神
口

Chin...

一本
二
八
月
時

